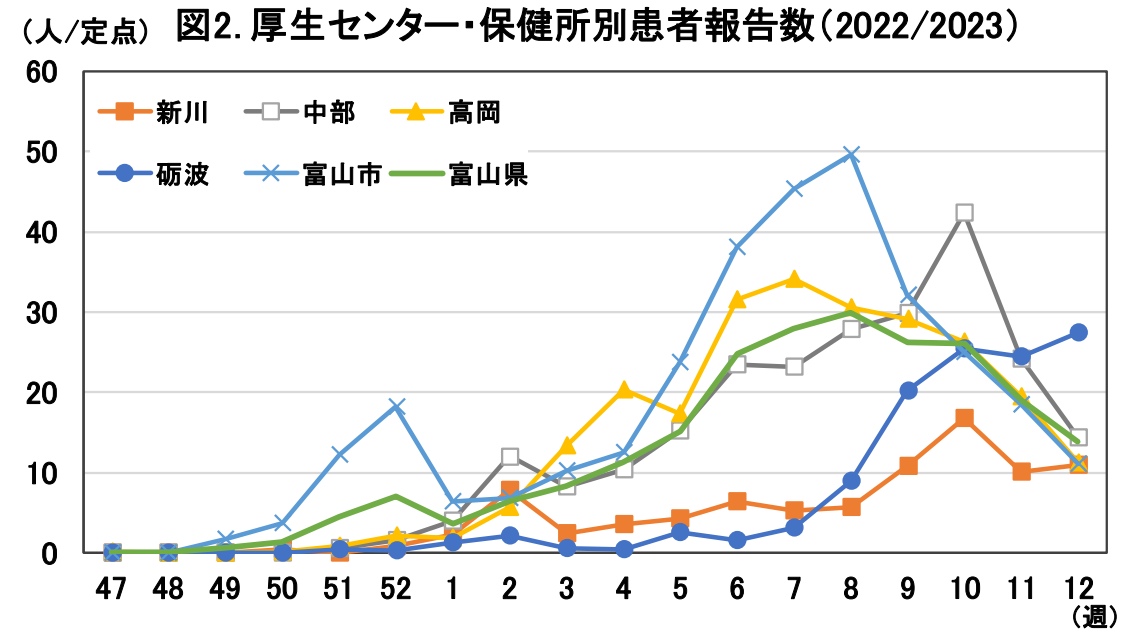
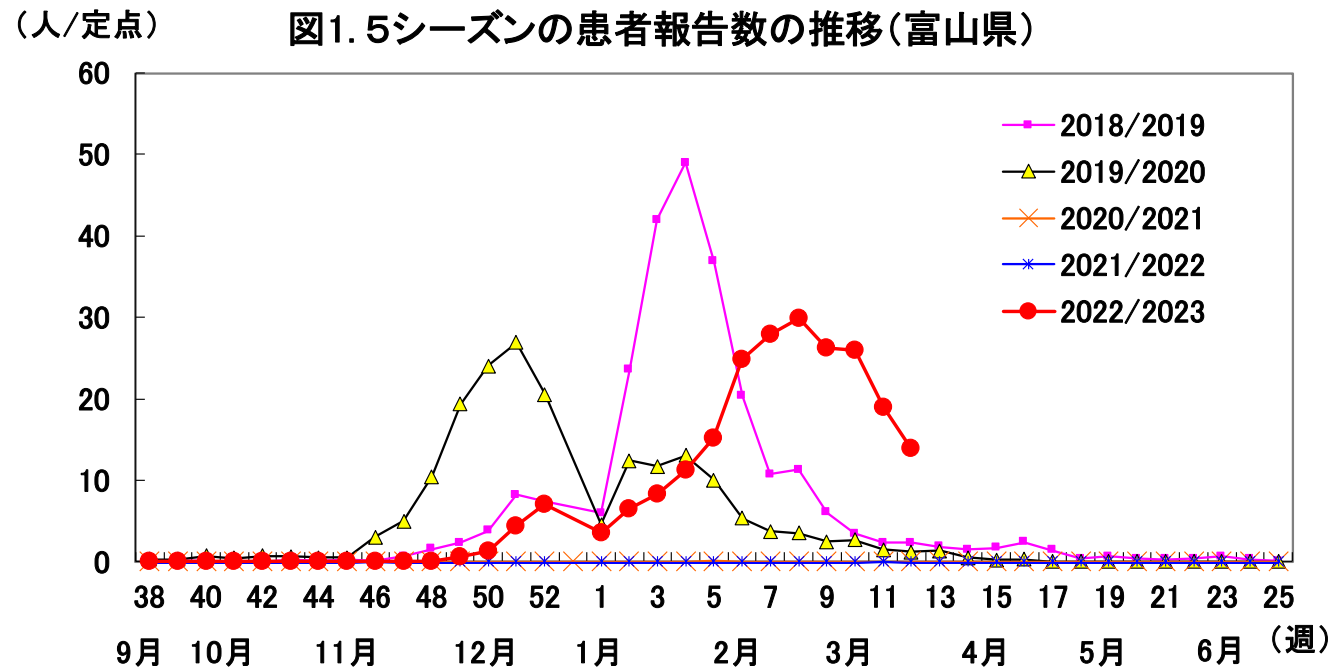


インフルエンザの発生状況(富山県)

【第12週(2023/3/20~3/26) 感染症発生動向調査速報値 (2023/3/29時点)】



- 今週の報告数は13.85人/定点となり、第8週 (29.85人/定点) をピークに減少傾向が続いている (図1)。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、砺波 (青、27.43人/定点)、新川 (橙、11.00人/定点) 管内で先週からやや増加した。一方、中部、高岡、富山市管内では減少傾向が継続している。

図3. 年代別割合(富山県、第12週)

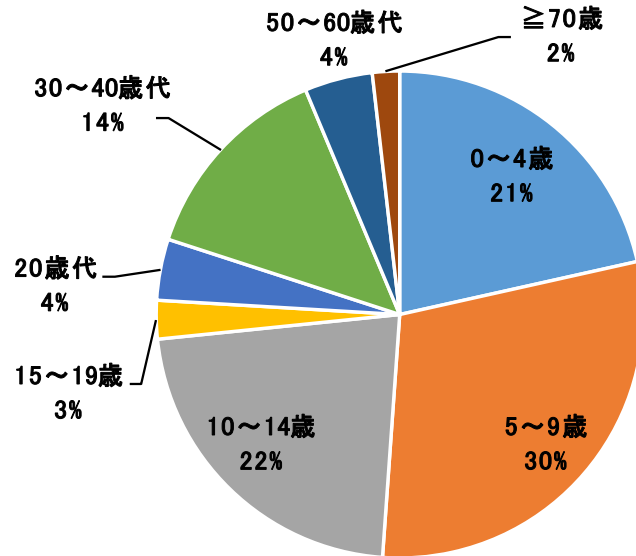
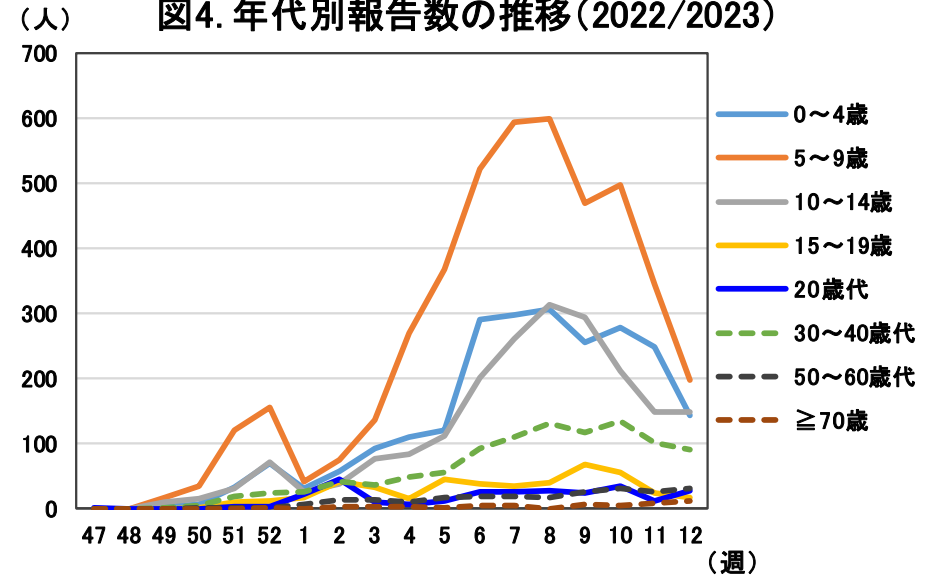


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第12週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が73%を占め、先週(81%)から減少した。
- 年代別報告数の推移（図4）では、0~4歳（水色）、5~9歳（橙）は顕著に減少した一方、10~14歳（灰色）は今週横ばいであった。症例数は少ないものの、20歳代（青）、50~60歳代（黒点線）、70歳以上（茶点線）において、先週から増加した。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第12週に、小学校5件が報告された。報告数は先週（15件）から減少した。

富山県HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

富山県感染症情報センターHP：<https://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/inful/influ2223/influ2223.htm#gakkyuheisa>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第11週)

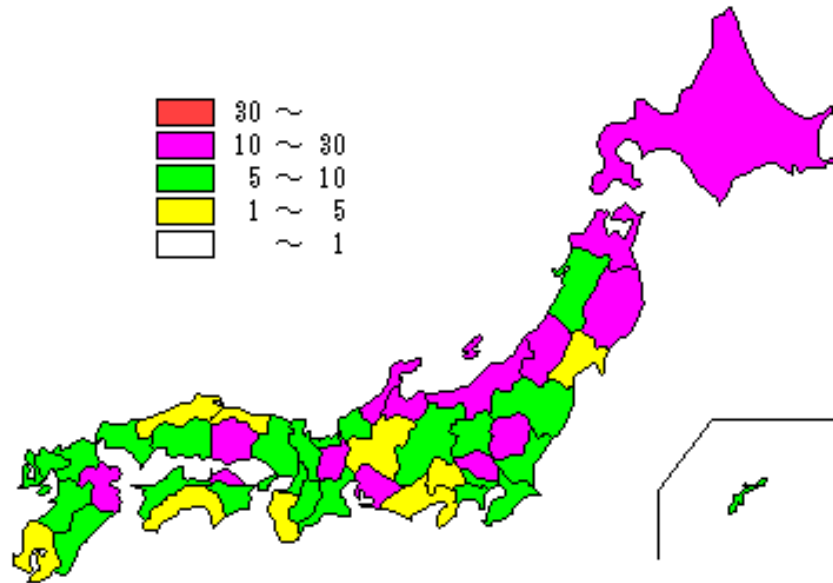
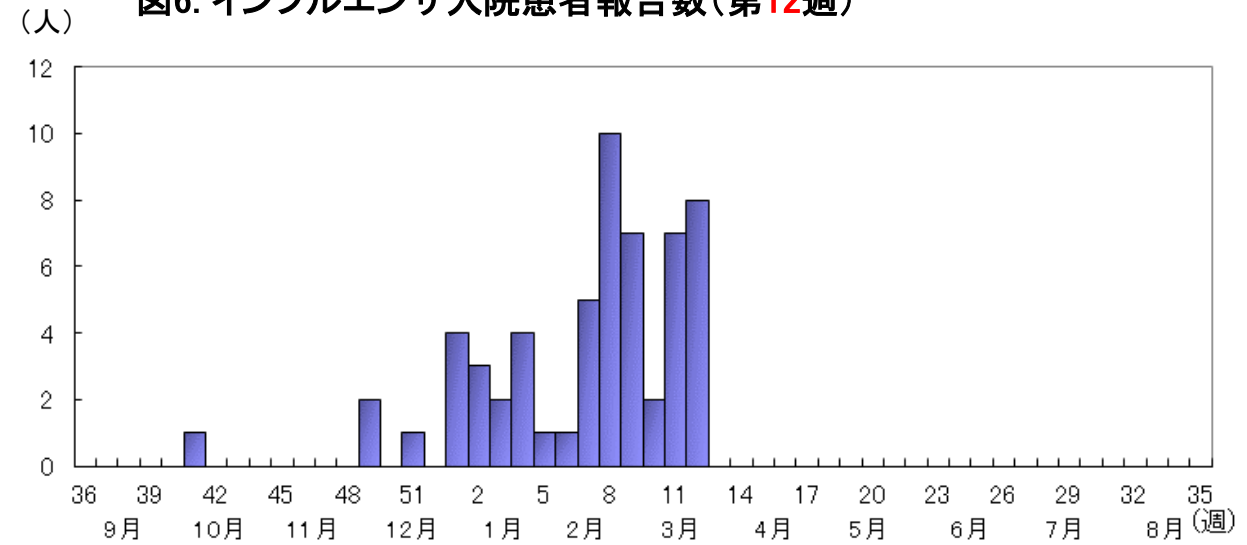


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第12週)



- 全国の定点あたり報告数は第11週に8.42人/定点となり、前週（11.10）より減少した。なお、都道府県別（図5）では14道県で注意報レベルの10人/定点を超えている。警報レベルの30人/定点を超える都道府県はなかった。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第12週に8例（小児4例、70歳以上4例）の報告があった。